

第 14 回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成 25 年 2 月 20 日(水)

午前 10 時から

場所 第一庁舎 8 階 第一委員会室

【出席者】

	氏 名
委員 (5 名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、渡辺晃司委員、 石川利江委員、 (欠席:樋口敦子委員、高木直樹委員)
事務局 (5 名)	原田都市整備部長、轟まちづくり推進課長、 小田切中心市街地活性化対策室長、小林係長、小林主査

1. 開会
2. 委員委嘱
3. 都市整備部長あいさつ
4. 正副委員長選出・あいさつ
5. 議事

(1) 基本計画の変更について

<資料1> (説明者:事務局)

(2) 数値目標に対する平成 24 年度の結果について

<資料2> (説明者:事務局)

(委員)

- ・ 目標 3 の「歩きたくなるまち」の歩行者・自転車通行量が増えない。残暑が厳しい 9 月の第一金曜日に調査しても結果が出ないのではないのか。調査日の変更はできないのか。

(事務局)

- ・ 観光シーズンではなく、行事のない日を調査しているが、一年中、中心市街地が賑わって欲しいということで目標を設定したので、調査日を変更しないがご理解願いたい。昨年は確かに、中央通りが工事中等の事情により少なくなっているが、イベント等のソフト事業やハード事業を計画どおりに進めれば、決してクリア出来ない数字ではないと認識している。

(委員)

- ・ 歩行者・自転車通行量調査は 1 日だが、通年の通行量の印象はいかがか。

(委員)

- ・ 市街地で仕事をしているが、街を歩いている観光客が、微増だが増えていると感じる。9 月の始めは、夏の疲れが出て厳しい時だが、それでも平

成 19 年に比べれば増えているということは、権堂まちづくりセンターをはじめ、皆さんのいろいろな活動が、街を動かす力になっていると感じている。権堂の空き店舗が減ったことも含め、大きな仕掛けでもない、小さなソフトの積み重ねが沢山出来ていき、その集積が長野の街を他の街とは違う魅力的な街にしていくと思っているが、今、成果が実ってきているのではないか。

(委員)

- ・ 信濃美術館と城山公園のあるエリアを、今後、県と連携して、長野市の大事な芸術文化ゾーンとして整備していただきたい。

(事務局)

- ・ 確かに県立美術館が古くなってきており、県も対策を検討するようだ。公園については、ある団体から植栽に協力する旨の話しをいただいているので、すすめたい。それから、桜並木がかなり老木化してきているので、時間はかかるが、新しくしていく。

(委員)

- ・ 長野市の顔である中央通りと権堂アーケードの空き店舗が、少しでも埋まることは、悪いことではないので、更に進めていかないといけない。一方で錦町通りの空き店舗が増えているが、権利者のご理解をいただきながら、街が良くなる事を前提に頑張っていくといけない。

(委員)

- ・ 年齢別の人口の資料を見て、非常に嬉しく思うのは、中心市街地の成人と子供が増えていること。中心市街地は便利なので、少し戻りつつあるのかと感じる。

(委員)

- ・ 長野市善光寺表参道ガイド協会は、どういうことをするのか。

(事務局)

- ・ 長野市善光寺表参道ガイド協会は、門前町の人々が大切にしてきた資源や新たに生まれた資源を発掘し、来街者と門前町に暮らす人々双方に、「善光寺さんの門前での楽しみ方」を発信して、もてなし＝交流の輪を広げて、活気のある「門前町ながの」づくりのために、設立され活動するもの。市とコンベンションビューローの観光施策のひとつであり、ボランティアガイドを養成して、ガイドツアーを実施すること等を目指している。

6. 事務連絡

7. 閉会